

## ■今月の特選句

2016年9月

**浮いてこい何を恥づかしがってるの**

田村米生

恥づかしがっているから浮いて来ないのだという思い込みの可笑しさ。命令調の呼び掛けと、優しく尋ねる少女の会話調。アンバランスも可笑的。

**猛暑日や金魚の赤く茹で上がる**

伊藤浩睦

猛暑だから金魚鉢の金魚も、さぞ暑くてたまらんだろう。との作者の優しさが原点にある。金魚が茹で上がるという発想の根底には童心もある。

**綺麗ねと言はれ琉金ひるがへる**

山本 賜

擬人化は「対象を人間扱い」するのではなく、「作者が対象になりきる」のがいい。妙齢の女性が衣裳を褒められたとき自慢げな所作をするのと同じ。

**同じ血を分けたる仲の藪蚊打つ**

柳 紅生

我が血を吸った藪蚊は、いわば血を分けた兄弟。しかし、こやつと血縁関係になっても仕方ない。それに、これ以上の縁者も要らぬわい。

**涼しさや人さまさまの不恰好**

梅岡菊子

プラスイメージの季語と、「不恰好」というマイナスを取り合わせて滑稽を創出。猛暑には恰好などかまっておられない。最終的には裸同然になるね。

**親方の方がちんまり三尺寝**

横山喜三郎

三尺寝は職人が狭い場所で休憩することを言う。現代の若者は脚が長いから「三尺寝」は厳しい。早晩、死語になる。季語の寿命を延ばしたね。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

白南風か御用聞きかと思つたら  
・・・梅雨明らしく音に乾きも

稲葉純子

・・・鼻糞を掘るときは主役さ  
生身魂老いて益々地獄耳

金澤 健

冷房の弱き電車で腹が立ち  
・・・忍耐力をつける通勤

飯塚ひろし

・・・イケ面シェフにや無抵抗だぜ  
地球儀とキャッチャーミット虫干に

井野ひろみ

扇風機わが意を汲みて首を振る  
・・・即座に一句擬人化をして

秋月裕子

・・・蚩は旦那糸は金蔓  
醜男に女難の相や蟻地獄

赤瀬川至安

心太つうるり昭和蘇る  
・・・セピア色なり三杯酢また

奥脇弘久

・・・一言居士の列滞る  
梅雨明は予報士よりも肌で知る

上山美穂

**セイフティネットならざる蜘蛛の網**  
・・・人を捕えて蜘蛛の投げ首

高田敏男

**心太つうるり昭和蘇る**  
・・・セピア色なり三杯酢また

田中早苗

**蟻の列なにか小言をいひ合つて**  
・・・一言居士の列滞る

久我正明

**梅雨明は予報士よりも肌で知る**  
・・・予報士もまた肌が決め手と

佐野萬里子

**セイフティネットならざる蜘蛛の網**  
・・・人を捕えて蜘蛛の投げ首

工藤泰子

## ■今月の滑稽句

- |      |  |                      |
|------|--|----------------------|
|      | 老人のかぶりつけない青林檎<br>蒔いた種生えぬ甥姪蚊帳の外                     | 青木輝子<br>青木輝子<br>青木輝子 |
| 【佳作】 | ダイエットしなきゃ着れない更衣                                    |                      |
| 【佳作】 | 夏草を摘みて手指を草木染<br>本堂のゆたりと構ふ梅雨晴間<br>音合せも頻りなりけり菖雀      | 青山桂一<br>青山桂一<br>青山桂一 |
|      | 閑話休題小暑なんかであるものか                                    | 赤瀬川至安                |
| 【佳作】 | 梅雨湿りひねもす眼科咽喉科                                      | 赤瀬川至安                |
| 【佳作】 | 日毎のテロにまだ馴れぬ夏休み<br>笑ひ乍らも哀しさのある日焼かな                  | 秋月裕子<br>秋月裕子         |
| 【佳作】 | 盂蘭盆や佛の数を自慢する<br>竹槍で護る銃後や敗戦忌                        | 飯塚ひろし<br>飯塚ひろし       |
| 【佳作】 | みんなの疲れの果ての長音よ<br>ブラ外すところ覗かれ鬼やんま<br>ラムネの落ちる速度が気に入らぬ | 井口夏子<br>井口夏子<br>井口夏子 |
|      | 神々も乳房も揺れる女神輿                                       | 池田亮二                 |
| 【佳作】 | 左前に浴衣着た娘も盆踊り                                       | 池田亮二                 |
| 【佳作】 | 真夏日や人もレールも伸びてをり<br>黒百合の花はしっかり日焼して                  | 伊藤浩睦<br>伊藤浩睦         |
| 【佳作】 | 鯰云ふ止めときなはれ再稼働<br>おやじ臭嫌はれながら放屁虫<br>団塊の精根尽きて夏の果て     | 伊藤洋二<br>伊藤洋二<br>伊藤洋二 |
|      | 風上も風下もくちなしの花                                       | 稲沢進一                 |
| 【佳作】 | 人は人自分は自分蝸牛<br>初秋や急ぐことなく速足に                         | 稲沢進一<br>稲沢進一         |

- 【佳作】 獲物を捜す水鉄砲に水を込め  
ハンカチや嘘の涙も拭ひたる  
稲葉純子  
稲葉純子
- 【佳作】 来訪のチャイムに居留守昼寝かな  
老いの身で句会とはいへヨット港  
井野ひろみ  
井野ひろみ
- 冷房の部屋猫の背とくつつみて  
【佳作】 太陽に歯向かふカラフルな日傘  
上山美穂  
上山美穂
- 齢とらぬ石の仏や敬老日  
盆踊中の一人は亡者らし  
【佳作】 その中に泳ぎたくなる鯛雲  
氏家頼一  
氏家頼一  
氏家頼一
- 胸さらす緑蔭生まれの風にかな  
【佳作】 炎帝を睨みつけたる大向日葵  
梅岡菊子  
梅岡菊子
- 甚平に勝ちを譲れり腕相撲  
昭和一桁土用鰻に卑しさを  
【佳作】 走馬燈男ばかりがたそがれる  
越前春生  
越前春生  
越前春生
- 碁敵に西瓜貰って勝てもせず  
夏祭り恋も金魚も掬えない  
【佳作】 柔軟に生きるも知恵や萩の花  
岡野 満  
岡野 満  
岡野 満
- 【佳作】 幽霊も出番を洩る熱帯夜  
腹に脂肪泳ぐよりまず浮くために  
短夜の妻の寝言と寝返りと  
小川鈍太  
小川鈍太  
小川鈍太
- 【佳作】 猛暑日や字余りばかり浮かび消え  
熱帯夜チキチキバンバンいつまでも  
奥脇弘久  
奥脇弘久
- 夏瘦と見え見えの嘘ダイエット  
二学期や子の抽斗にかかる鍵  
【佳作】 椋鳥の勝手を許す大樹かな  
加川すすむ  
加川すすむ  
加川すすむ

- |      |                  |       |
|------|------------------|-------|
|      | 先づはとて出べそ掘らるる冷奴   | 笠 政人  |
| 【佳作】 | うら生りの歪な胡瓜揉みほぐす   | 笠 政人  |
|      | フリル揺るる絵日傘美人顔見たし  | 笠 政人  |
|      | 蛍のブローチ胸に山の子ら     | 加藤澄子  |
|      | 幸せや子の奢りなるかき氷     | 加藤澄子  |
| 【佳作】 | 熱帯夜毛皮が脱げぬと猫拗ねる   | 加藤澄子  |
| 【佳作】 | 顔洗ふ面積増えて洗ひ髪      | 金澤 健  |
|      | 泡盛や罪ある人のごとく下戸    | 金澤 健  |
|      | 汗垂らしおんぶだつこの母強し   | 川島智子  |
| 【佳作】 | 老鶯の手本の如き谷渡       | 川島智子  |
|      | どつしりと泰山木の花も葉も    | 川島智子  |
| 【佳作】 | 饒舌の病氣自慢の源五郎      | 久我正明  |
|      | 夕涼み最中の皮を抜け出して    | 久我正明  |
|      | くすぐりの花咲きだして笑ひ出す  | 工藤泰子  |
| 【佳作】 | しくじりを自慢してゐるなめくじら | 工藤泰子  |
|      | イチローの涙を隠すサングラス   | 小泉花子  |
|      | 出口なき家に逃げ込む油虫     | 小泉花子  |
| 【佳作】 | 昼寝する夢を見ていた昼寝覚    | 小泉花子  |
|      | 看板を蟻天国に書きかへる     | 小林英昭  |
| 【佳作】 | 片陰を鼻下にたくはへチャップリン | 小林英昭  |
|      | アラジンのランプより生る雲の峰  | 小林英昭  |
|      | 土用鰻予約に縛られ今日買へず   | 佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 巡行の午後解かれをり祇園鉾    | 佐野萬里子 |
|      | 墓拜む眉毛の太きはらからよ    | 下嶋四万歩 |
|      | 疲れたと言ひ出しかねる神輿かな  | 下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 散るたびに溜息つゝの花火かな   | 下嶋四万歩 |

	尻の香を嗅ぎ比べ買ふメロンかな 丸くなり直ぐたんまする団子虫	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	口を割る美女に弱点生身魂	
	ごきぶりの出合ひ頭に疾走す	白井道義
【佳作】	田植機の名前「早乙女」出番待つ サングラスかけて根つから人見知り	白井道義 白井道義
	寒色の服で装ふ酷暑かな	鈴木洋子
【佳作】	毒舌の句会かき消す蝉時雨	鈴木洋子
	三枚揃って入って出てくる東京行きキップ	鈴木和枝
【佳作】	娘の意見孫娘の意見 熱帯夜 三日三晩干した梅にVサイン	鈴木和枝 鈴木和枝
	炎天下黒いスカートブラウス着	鈴木哲也
【佳作】	風薫る髪を毛立ててドレスシャツ オフィス街香水つけてかばん持つ	鈴木哲也 鈴木哲也
	暑気払ひ迷わず酒と名医かな	高田敏男
【佳作】	籠の鳥飛んで逃げたし羽抜鳥	高田敏男
	窓口のイケメンただいま帰省中	高橋きのこ
【佳作】	村芝居役者追ひ出すはたた神 分け入っても分け入っても蓮原	高橋きのこ 高橋きのこ
	びせうの女神潜めたる蓮の花 宇宙の記憶稔りたし夜半の夏	田中 勇
【佳作】	行く夏の交響曲を聴きにけり	田中 勇 田中 勇
	青田風伸びて縮んで驚の首	田中早苗
【佳作】	雨上がり格闘は草日焼婆	田中早苗
	遠雷やポケットラジオがぎぐげご	田村米生
【佳作】	対岸の夕立見てゐる晴れ女	田村米生

- |      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 大夕立ゲリラ豪雨に昇格す<br>夏のれんゆらゆら揺れて客を待つ<br>艶の良きゴキブリ見とれ取り逃がす  | 津田このみ<br>津田このみ<br>津田このみ |
| 【佳作】 | ウルフてふ線香花火消へにけり<br>鳴き声の突然止みてセミコロン<br>秋残暑お気持ちいったい何さんしょ | 土屋泰山<br>土屋泰山<br>土屋泰山    |
| 【佳作】 | 好い年をしてなど言はぬ酔芙蓉<br>沖縄や唯事でなき蝉しぐれ<br>精のつき老い持て余す泥鰯汁      | 飛田正勝<br>飛田正勝<br>飛田正勝    |
| 【佳作】 | 昼食を食べて昼寝が日課なり<br>じわじわと山を呑み込む夏の雲<br>夏瘦を期待するにもままならず    | 中井 勇<br>中井 勇<br>中井 勇    |
| 【佳作】 | 麦藁帽ぬげば見事な禿げ頭<br>手すり足すり信濃の蠅の齧らしき<br>わがシャツと揃ひの縞や熱帯魚    | 新島里子<br>新島里子<br>新島里子    |
| 【佳作】 | サングラス防犯カメラに睨まれる<br>深刻な話はよせよ搔氷<br>今日も来ぬ光源氏や簾巻く        | 西をさむ<br>西をさむ<br>西をさむ    |
| 【佳作】 | 院展の少女の頬に和を感じ<br>熱帯夜寝汗で溺れる夢を見る<br>ビールには千葉の長の名を送り      | 花岡直樹<br>花岡直樹<br>花岡直樹    |
| 【佳作】 | 肩紐の肉に食ひ込むサングラス<br>痺るるや女こどもとかき氷<br>朝顔のつるの気儘や許しやる      | 原田 曄<br>原田 曄<br>原田 曄    |



- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 吾ひとり自問自答の草を引く<br>稲穂垂る老人クラブの青年部<br>【佳作】 蛇嫌ひ句座の話の盛り上がる  | ひがし愛<br>ひがし愛<br>ひがし愛    |
| 翳雲に一網打尽牧の牛<br>夫の遺影子よりも若く盆来る<br>【佳作】 西瓜切る地球まつふたつの気分    | 久松久子<br>久松久子<br>久松久子    |
| 女に変身香水の一滴で<br>追伸のごとくに光り秋蛩<br>【佳作】 朝顔や聞き漏らさじとする形       | 日根野聖子<br>日根野聖子<br>日根野聖子 |
| 【佳作】 飛行機はなし特攻の終戦日<br>壮年の彷徨認痴や流れ星<br>浄土には着いたかを問ふ魂送り    | 藤岡蒼樹<br>藤岡蒼樹<br>藤岡蒼樹    |
| 【佳作】 ポケモンを句にも詠まずに涼しく居<br>気が付けば絶滅危惧の鰻たべ<br>辛酸も遊興も墓の中の盆 | 藤森荘吉<br>藤森荘吉<br>藤森荘吉    |
| 【佳作】 喰つちや寝心太式余生かな<br>瓜漬けと茶漬け掻き込む旨さかな<br>老いに鞭強き西日に瘦せ我慢 | 細川岩男<br>細川岩男<br>細川岩男    |
| 茗荷の子決して孫には食はせるな<br>町中に臭ひを配り丑の日に<br>【佳作】 出番だと鯰登場丑の日に   | 本門明男<br>本門明男<br>本門明男    |
| 【佳作】 神おはすこの地の緑に浸りみる<br>オゼコウホネ一花沼を輝かす<br>流れ星願ひは今夜も同じこと | 松井寿子<br>松井寿子<br>松井寿子    |
| 秘密基地で遣り取りされる兜虫<br>炎天に晒されお荷物広辞苑<br>【佳作】 蜜豆に似合はぬどろどろ話かな | 松井まさし<br>松井まさし<br>松井まさし |

前頭前野機能しません暑いです トマト泥棒頭上にポトリヘタ落とす 【佳作】 トマト盗るカラスよ半分残しなさい	南とんぼ 南とんぼ 南とんぼ
水中花怠りみるを許されず 【佳作】 雲の峰ピンチの後のチャンス待つ 新の靴揃えておろす今朝の秋	百千草 百千草 百千草
パワハラにじっと耐えてる山西瓜 お互いに慌てふためく夜の蝉 【佳作】 箸が鬼西瓜の種のかくれんぼ	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
目薬をさすに口あく九月かな 【佳作】 巻尺を伸ばし夜長を測るかな 籐椅子にがたの来てゐる休暇明	八木 健 八木 健 八木 健
淡麗と名指しのビール爆買ひす 【佳作】 花火見のドットコムとは新発見 脚を組む巨漢一疋田を守る	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
突き出しの決まりの一手焼きなすび 【佳作】 尽きる季に引導渡す法師蝉 吹く風に会釈いちいち穂草かな	八塚一青 八塚一青 八塚一青
油蝉疲労の色を濃くしたる 【佳作】 奥の手を小出しにしたる夏休	柳 紅生 柳 紅生
夏風の波走らせて鬼ごっこ 青天に命問ひつつ秋を待つ 【佳作】 ぽつりぽつり屍の地の蝉時雨	山下正純 山下正純 山下正純
腹掛やいかなる寝相も気にならず 【佳作】 板戸大切行水の姉妹には 虫干といえども箆筒開けるだけ	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】 正直な朝顔日記子の日記 まぜ混ぜに絵の具で渋谷の夏を描く	山本 賜 山本 賜
年ごとにサンバめきくる盆踊 【佳作】 夜這星昔昔の夜這村	横山喜三郎 横山喜三郎

涼風が鼻毛そよがす朝の市  
母老ゆる不幸を詫びて団扇風  
【佳作】 蠅打つや行方捜せと命くだる

吉原瑞雲  
吉原瑞雲  
吉原瑞雲